

捕虜たちが残した記録

捕虜たちの中には、日記をつけていた者がいました。ヘルマン・ケルステンという捕虜が残した日記からは、公式の資料には記されていない、捕虜たちの暮らしぶりや気持ちを知ることができます。日記の中から、いくつかのエピソードを紹介しましょう。

テニスコートを作る

テニスコートを作って欲しいという要望が多く、2つのバラック棟の間を整備した。…コートの下に敷く砂利は、収容所から1時間の距離にある小川から、わら袋に詰めて運んだ。…テニスコートはよく利用されたが、全員が利用できたわけではなく、自分でラケットや球や靴などの用具を買ったり借りたりできる者に限られていた。



姫路師範学校とのサッカーの試合

姫路から来た師範学校のチームと試合をした。第1試合は私たちが6対0で勝った。第2試合は私たちのチームで争いが起こったこともあり、2対2になった。日本人は得意になって、第3試合を挑んできた。ところが、そのときにはチーム内の争いは解消していた。私たちは8対0で勝った。私は彼らのがっかりした顔を決して忘れない。

このときの試合にはケルステン自身も参加していました。



美味しいパンを求めて

新しい主計長は、パンを自分たちで焼きたいという希望を叶えてくれた。捕虜の中にいたケーキ製造のマイスターとパン焼き職人2人が設計し、レンガ積み職人も協力して、パン焼き釜を作った。その釜で、最良のオーストリア産小麦粉を使って良質の白パンを焼いた。パンの割り当ては以前に比べて2倍になった。

パン焼き職人は、自分で調達した材料も使ってお菓子を焼き、お金を持っている人たちに売ることも許されていた。

池で泳ぐ

暑い日には泳ぎたかったが、それは堅く禁止されていた。ある日、豚の飼育場の近くにあった池のそばで、捕虜たちの争いがあり、1人が池に突き落とされ、それを見た1人が池に飛び込んだ。2人はしばらくして、少し離れた場所に浮かび上がってきた。

監視人はそれをもう一度見たがった。私たちが「泳ぎは禁止されているから」と断ったが、監視人は「捕まらないように自分たちが見張っておいてやる」と答えた。そうして、私たちは毎日泳ぐことができるようになった。



豚の飼育場は、現在の加西市別府東町にある繁昌中池のほとりにありました。ケルstenは豚の世話係でした。

※各エピソードは、『AONOGAHARA捕虜兵の世界』に翻訳されている「ケルステン日記」の内容を、わかりやすくまとめたものです。

青野原捕虜収容所の歴史を引き継いでいくために

今からおおよそ100年前、青野原捕虜収容所には約500人の捕虜が収容されていました。捕虜たちは塙の中に閉じ込められていただけでなく、地域の人たちとも交流していました。今ほど自由に外国との行き来ができず、また外国についての情報も十分でなかった時代に、青野原周辺の人々は、捕虜を通じて世界とつながっていたのです。

そんな青野原捕虜収容所について、もっとよく知るために、現在も加西市の人たちと神戸大学などの研究者が協力して、収容所の調査が続けられています。

また、収容所があった富合地区では、地域の人々が中心となって保存会が作られました。今も残っている建物や資料を守るために、また、次の世代に青野原捕虜収容所があったことを伝えていくために、様々な活動が行われています。



神戸大学での展示会



保存会での活動の様子

もっと詳しく知りたいときは？

○『青野原捕虜収容所と加西市』は、本編・別冊ともに、加西市と神戸大学大学院人文学研究科地域連携センターとの連携事業で作成された『加西に捕虜がいた頃—青野原収容所と世界—』をもとに作っています。この本は、市内の図書館で読むことができます。また、加西市のホームページからデジタル版をダウンロードすることもできます。
URL <http://www.city.kasai.hyogo.jp/02kank/20hory/20hory00.htm>



○他にも、青野原捕虜収容所について書かれた、次のような本があります。どの本も加西市立図書館で読むことができます。

- 小野市史編纂専門委員会『小野市史』第2巻、3巻(小野市、2003、2004年)
- 加西市史編さん委員会『加西市史』第5巻(加西市、2004年)
- 大津留厚・福島幸広『AONOGAHARA俘虜兵の世界』(『小野市史』第3巻別冊、2004年)
- 大津留厚『青野原俘虜収容所の世界—第一次世界大戦とオーストリア捕虜兵—』山川出版社、2007年)
- 大津留厚・奥村弘・長野順子『捕虜として姫路・青野原を生きる 1914-1919—箱庭の国際社会—』(神戸新聞総合出版センター、2011年)

青野原捕虜収容所と加西市 別冊—捕虜が記録した100年前—

発行日 2019年3月10日
編集 神戸大学大学院人文学研究科地域連携センター
発行 加西市教育委員会
〒675-2395 加西市北条町横尾1000番地
印刷 株式会社ソーエイ

青野原捕虜収容所と

POW camp AONOGAHARA in Kasai

加西市

別冊—捕虜たちが記録した100年前—

青野原捕虜収容所について

あおのがはら ぼりよしょうじょう
青野原捕虜収容所は、第一次世界大戦時にドイツとオーストリアの捕虜を収容するために作られた収容所のひとつです。第一次世界大戦は、1914年(大正3年)から1918年にかけて、ドイツ・オーストリア・トルコなどの同盟国と、フランス・イギリス・ロシアなどの連合国との間に起こった戦争です。日本も、イギリスとの同盟関係にもとづいて参戦を決定し、ドイツに宣戦布告しました。そして、ドイツの東アジアにおける重要な拠点のひとつ、中国の山東半島にある青島軍港を攻撃し、勝利しました。この時、約4700人のドイツ軍とオーストリア軍の兵士が捕虜となり、日本に移送されました。

捕虜については「人道的に取り扱わなければならない」という国際的な取り決めがあり、日本もこの取り決めに加わっていました。捕虜たちはまず、全国各地に作られた12の収容所に入られました。初期の収容所は、お寺や公共の施設、民間の建物などを使用したものでした。やがて収容所の整備が進み、国内の収容所は6つに集約されました。

青野原捕虜収容所もこのときに作られた収容所です。それまで姫路や福岡に収容されていた捕虜たち約500人が、ここに移ることになりました。

収容所では、50人以上の兵士や警察官が捕虜たちを監視していました。また、朝夕の点呼(人が揃っているかを確認すること)をはじめ、いくつかの制約はありましたが、それ以外は比較的自由に過ごすことができたようです。

その後、第一次世界大戦の終結にともない、捕虜たちは次々と故郷へ帰っていきました。1920年1月に最後の捕虜が帰国し、青野原捕虜収容所は、同年2月29日に閉鎖されました。

今も残る収容所のおもかげ



左の絵は捕虜が描いた収容所の全体図。右は現在の青野原町を上空から写した写真です。今でも収容所内の道や区画の一部が残っていることがわかります。



*2009年国土地理院撮影空中写真をもとに作成



金刀比羅神社から眺めた北条の街並み

地域に残された資料

—収容所を建築したときの棟札—

棟札とは、建物の新築や改築のときに、板に日付や関係者の名前を記して打ち付けたもので、建物の情報を知ることのできる資料です。

収容所を転用した民家から発見されたこの棟札には、建物の設計者や工事を請け負った人などの名前が記されています。また、工事の開始日と完了日も書かれており、3ヶ月ほどで建てられたことがわかります。



棟札

故郷への想い

この絵はがきは、捕虜たちが作成し、捕虜製作品展覧会で販売されたもので、地元で大切に保管されていました。

絵はがきには収容所の生活を描いたものだけでなく「また故郷に帰りたいなあ!」「小鳥だったらなあ」と書かれた、故郷への想いや、捕虜としての生活の不自由さをうかがわせるものもあります。



捕虜たちが見た風景

捕虜たちの中には、写真を撮影していた者もいました。ハインリヒ・ハンクシュタインという捕虜もその一人です。彼が撮影した写真が大切に保管され、引き継がれてきたことによって、現在の私たちは、当時の収容所の様子や捕虜たちの生活を具体的に知ることができるのです。

青野原収容所では、捕虜たちが週に1度は半日程度の、月に1度は1日がかりの遠足に出かけていました。参加者は毎回200人ほどで、監視付きではありませんでしたが、右の地図からもわかるように、様々な場所に出かけていたようです。その際に訪れた場所や、通りすがりの風景、また、近隣の住民との記念写真も残っています。これらの写真は、当時の捕虜たちの生活だけでなく、100年前の加西市域の様子を知ることのできる貴重な資料となっています。

文化も習慣も異なる日本の姿は、捕虜たちの目にどう映ったのでしょうか。そして、加西の人たちも、捕虜たちのことをどう思っていたのでしょうか。



捕虜が金刀比羅神社から撮影した写真です。同じ場所から撮影した現在の写真をみると、街の風景が大きく変化していることがわかります。



捕虜が撮影した北条



現在の北条



民家が立ち並ぶ集落
(中央に写っているのは、遠足に出かける捕虜の隊列)



民家の前を通る行列



人びとの生活



地元の子どもたち

青野原捕虜収容所周辺の **今**と**昔**

捕虜たちは加西市域だけでなく、加東市や小野市にも遠足に出かけており、その時の写真がたくさん残されています。現代の写真と比較してみましょう。



地図 青野原収容所周辺図

出典：国土地理院地図・電子国土Web (<http://maps.gsi.go.jp/>) に加筆して作成。